



全国スケートボード施設 連絡協議会が発足

この協議会は、公設スケートパークを所有する全国の16自治体によって構成され、施設の課題解決や普及促進など、互いに連携し、地域振興に寄与することを目的に設立されました。

総会では、規約や活動方針が決められたほか、会長に本市の高橋市長、副会長に南魚沼市の林市長、富山県富山市の藤井市長、監事に茨城県笠間市の山口市長を役員とすることが承認されました。顧問には、スケートボード競技を応援する議員の会の7人に委嘱がされ、顧問を代表し櫻田衆議院議員に委嘱状が手渡されました。

これまでの経過

- 平成30年12月 協議会設立に向けた発起自治体間で打ち合わせを開始
- 令和4年7月 「全国スケートボード施設連絡協議会（仮称）」設立に向けた準備会の開催（出席38自治体）
- 令和4年11月26日 設立総会（構成員16自治体）

構成団体（16自治体）



11/26



マイナビ 日本スケートボード 選手権大会

11/24
~27

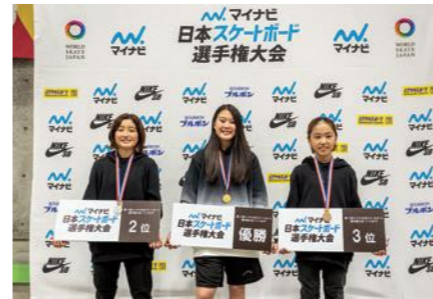
第5回マイナビ日本スケートボード選手権大会



一般社団法人ワールドスケートジャパン



▲東京2020大会銅メダリストの中山楓奈選手（富山県）



▲パーク女子、姉妹で表彰台に立った本市の菅原芽依選手（左）と琉衣選手（右）



▲パーク男子、平野歩夢選手は予選、準決勝共に1位で決勝に進出



▲ストリート男子、12歳で全日本の頂点に立った小野寺吟雲選手（神奈川県）



▲ストリート女子優勝の伊藤美優選手（山形県）



▲パーク男子優勝の永原悠路選手（長野県）



▲パーク女子優勝の草木ひなの選手（茨城県）



▲東京2020大会金メダリストの西矢花選手（大阪府）

写真提供 ©ワールドスケートジャパン

国内最高峰の大会「第5回マイナビ日本スケートボード選手権大会」が村上市スケートパークで開催され、ストリートとパーク（ともに男女）の競技種目に、154人の選手がエントリーし競技が行われました。

感染症対策として一般の観覧はできませんでしたが、瀬波温泉地域活性化施設（旧香藝の郷）と総合文化会館に設置されたパブリックビューイングの会場にはファンが集まり、画面越しに選手達に声援を送っていました。

地元の選手では、パーク男子で平野歩夢選手が予選、準決勝共に1位で決勝に進出。期待された決勝は膝のけがの影響もあり惜しくも7位となりました。パーク女子では、姉妹で決勝進出した菅原芽依選手と妹の琉衣選手が見事な滑りを披露。共に表彰台に上がり、芽依選手はアジア競技大会派遣選手に選出されたほか、琉衣選手とともに2023年ワールドスケートジャパンの強化指定選手に内定しました。